

しがらい 志賀来ふ

vol. **5**

2018年8月9日
志賀来地区
ふるさと交流実行委員会

発行部数：458部

ふるさと志賀来の今とこれからの暮らしのススメ

例年になく暑い夏が
やってきました



県道1号線から見た旧沢一小学校（撮影者：加藤茂）

志賀来ふ vol.5 2018年8月9日発行

発行者／志賀来地区ふるさと交流実行委員会

事務局／西和賀町ふるさと振興課 岩手県和賀郡西和賀町川尻 40-40-71 TEL: 0197-82-2111

舟っこ流し

2018年8月16日（木）

18:30 開会式

20:30 花火

場所：新町



志賀来ふの感想紹介

- ◆ 志賀来ふの裏表紙の感想紹介を読んでいると懐かしい人の名前を見、昨年沢内で集まった還暦の会を思い出して嬉しくなりました。沢内の情報を知ることにも楽しいのですが、今回はまた別の楽しみもあるのだと気づき、あらためて次号が楽しみにになりました。6月下旬の同窓会には、出席したかったのですが、仕事の都合上どうしても休めず泣く泣くあきらめました。「志賀来ふ」を通じて新しい情報を待っています。（太田出身 高橋 かおるさん）
- ◆ 志賀来山や沢内の雪景色、雪深い写真を見て自分が子供の時に一瞬に帰った気持ちでした。雪払いも大変だった事と思います。又、雪あかりの写真を見て、こんな事も今はしてるんだな—と思い心がホットしました。又、2年先輩の方で山中幸子さんの活躍の姿を見て、すごいと思いました。色々な情報を志賀来ふで見れて幸せに思います。ありがとうございます。（匿名さん）

懐かしい卒業写真



平成 15 年度



昭和 42 年度

本情報誌は、地域の出身者やゆかりのある方にお送りしています。まだ届いてない方がありましたら、ご住所をお知らせください。バックナンバー含め、お送りいたします！

志賀来の『食』

長く引き継がれてきたものから、新しく生まれたものまで、ふるさと志賀来の「食」をお届け！

西和賀の料理の紹介や、レシピを！というご要望にお応えして始まった『食』のコーナー。
2回目は、本手打ちそばにこだわる「およね食堂」を紹介します！



こだわりメニュー

なるべく地元のもの、自分達で作ったものを提供している。ご飯も出来るだけ農薬を使わずに自分達で育てた米を提供！安心、安全の食品なのだ。山菜や季節の旬な食材で日替わり定食のメニューが変わる。いまは、山菜の「みず」、「ふき」が旬。



およね食堂

住所：西和賀町沢内字太田 8-66
電話：0197-85-2045
時間：食事 10:00～16:30
土産 9:00～19:00
定休：不定休
(電話でご連絡を)



佐々木淑子さん(86)【太田在住】
忙しい毎日が好き。じっとしてられない性分の働き者のお母さん。今日もおよね食堂を切り盛りしている。農家レストランおよね食堂は、地元の食材や、山菜にこだわり季節ごとに小鉢の内容が変わる。懐かしいおふくろの味。手打ちそばにこだわっている。

およね食堂

先々代の頃、「ふじや商店」から始まった食堂！大正末期頃は村のなんでも屋さんで、お酒から食料品、日用雑貨と生活に必要なものは何でも揃っていました。昭和44年には店の向かいに碧祥寺博物館が開設され、お土産物屋さんとしても賑わったそう。お寺の参道途中の休憩所に食べ物を提供していたことも。当時は大型バスが何台も来て、活気があったそうですが、今は県内外からのリピーターのお客さんがほとんどで、毎日食べにくる根強いファンの方々もいるそうです。

そばも作付けしています。手打ちそばには、山菜がたくさん盛られていますが、それを「およねそば」と名付けて提供しています。そばの収穫時期には、「新そばまつり」(10月中旬～11月中旬)を開催し、西和賀産そばのオリジナルメニューで、多くのお客さんの胃袋を喜ばせています。西和賀に来たらぜひ、立ち寄ってみてください！

ご挨拶

新会長に
就任しました



志賀来地区ふるさと交流事業
実行委員会

新会長

内記 和彦

地域の皆様及び出身者、志賀来に所縁のある皆さまには、日頃よりご支援を頂きありがとうございます。先に開催されました志賀来地区ふるさと交流事業実行委員会におきまして、会長に推薦頂きました前郷の内記和彦です。よりしくお願い申し上げます。



力をお願い申し上げます。

信委員長を先頭に、関係者の皆様により活動基盤の整備を精力的に進めてこられました。これまでの多くの成果を基に、目標達成に向け皆様のお力を頂き努力して参りたいと思っております。

また、私は地区(学区)の拠り所である「第一小学校」の活用につぎまして、会としても模索する必要があるのではないかと考えております。活用策につぎまして、可能な範囲でなんらかの提案ができればと考えております。

人口減少で町が無くなるのではないかと心配されていますが、志賀来地区がその危機を打ち破るモデルとなるようご支援、ご協

新体制に 夢託す

次世代に
託します！



志賀来地区ふるさと交流事業
実行委員会

前会長

佐藤 政信

合併後の12年間、区長として数々の事業に取り組んできた。今年度4月より新しい体制に引継ぎ、やっと自由な自分の時間を持つことが出来た。それを機会に、廃校となった高台が気になり、草刈り作業を計画して参加し、記念公園跡地を中心に整備に取り組み始めた。それぞれの思い出を胸に卒業生が植えた記

念樹が大雪に倒され枝が折れていたが、それら木々の応急対応を何とか済ませることができた。7月30日で81歳となる自分に、この先何ができるだろうと考え、体の動けるうちに、整理してやっておくこととして考えていた中に、母校高台の整備があったこともある。

「人生百歳時代」とはいえ、お迎えが来るのは近い。長い間私を交えてくれた部落の皆にも、私のできることで感謝の気持ちを伝えたい。現役の時代になかった自由な時間が終活に入り、係わることでできた。老木となり病氣となった桜にも手を入れ、整備された高台から志賀来山を見る。桜を見ながら廃校の活用を考える。夢を持ちながら次世代に託していきたい。

人口減少の時代、経験したことのない課題が山積みしている。引き継いだ次世代の体制が順調に活動できることの手助けになれば幸いである。

長い間私を支えてくれた方々に感謝し、この機会を与えてくれたことにお礼をのべ筆をおくこととする。

志賀来の人

志賀来で頑張る人にお話を聞きます。

しょうけん 佐々木 昭見さん

【前郷下巾地区在住】

昭和 24 年生まれ、68 歳。山菜採りの名人。年間 200 日、山の中で山菜ときのこを採る、無類の山好き。西和賀町のすべての山を知り尽くす筋金入りの山菜ハンター。



山菜採り名人

ひよんなことから山好きに

25 年位前から、ひよんなことから山好きになった。今は毎日、山に通う日々を過ごしている。

全ての山菜を収穫しているよ。今時期だとわらびとみず。採った山菜は、西和賀町太田にある産直「里の恵み」に卸してる。仕事としてやっているんじゃない。趣味の延長みたいなもんだ。

山菜採りのルール

最初の頃は、採るのが面白くてね。生えている山菜を全部採ったもんだつたよ。でも次の年に同じ場所に行くと、山菜の数が減ったり、茎が細くなっていたりして、がっかりしたんだよね。今は生えている山菜の 3 分の 1 くらいを採って、あとは残して来る。これは山菜採りのマナーだよ。大体の人が口を揃えてこう言うと思う。

ピークの時は、テレビとか新聞の取材要請がよく入るんだ。でも、時間を拘束されたり対応が面倒で、今はほとんど取材は断っている。今回は特別。

山菜の生える場所

よく、山菜とかきのこ採りの名手は、自分のテリトリーみたいのがあって、自分が採る場所を誰にも教えないと言うが、俺は教える。でも山の景色は時間とともに変わるものだから、いつも同じ景色じゃない。教えてもらったとしても、次の年に同じ場所に行くのは、素人にはなかなか難しいことだな。



圃場整備で変わる太田

「志賀来ふ」1号で少し紹介しましたが、太田地区では『経営体育成型基盤整備事業』により圃場の整備を行っております。計画の概要は受益者面積約65haで、工期が平成28年から31年5月までの予定です。

工事は順調に進み、現在約26.5haが終了し、既に作付けも済んでおります。第3工区14haについては6月に引渡の予定で工事が進んでおり、計画の6割程の工事が終わることになります。残りの第4工区23.8haについては31年の5月中旬をめどに工事が始まりました。想像を超えた大きな田圃と畦畔に広い農道が伸び、その偉容にはただ驚くばかりです。来春には最大70aにもなる田圃で大型のトラクターやコンバインが躍動し、これまでとは違った農村風景が映し出されます。



容していきます。地域の大事な交流だった『結』から、新たな支え合いの深心へと、確かな一歩を踏み出し前進していかねければと、広大な緑の田圃を眺めながら思いを巡らしました。



太田区区長
高橋 勝



志賀来に住んで頑張る若手の様子をお届けします。

志賀来の 若いチカラ

もんま ゆか
門馬 由佳さん (28)

【大野地区在住】

1990年生まれ東京出身。中学から大学まで女子校。大学は国際関係学科で情報社会学・教職をメインに勉強。2018年7月から地域おこし協力隊として西和賀町に移住。



雪あかりボランティアから移住へ

——なぜ西和賀町？——
一番は、「西和賀が好きだから」です！2014年の雪あかりの時に、ボランティアで来たのが初めてですが、地域の皆さんがとてもあたたかいというのが印象的でした。その後も、雪あかりの時は毎年参加。そのうち冬以外の西和賀にも行ってみたいと思い、春夏秋冬「里帰り」させてもらうようになりました。気づけば4年間で13回も来ていました。

——どういう経緯で協力隊に？——
ずっと海外で働くことを考えていましたが、大学3年の時に福島県昭和村での農業ボランティアを通して「日本の地域の何気ない日常が素敵だなあ」と感じ、日本の地域活性に関わりたいと思うようになり、大学院生時代は、農業・古民家改修・環境整備・イベント運営などのボランティアに参加する日々を送っていました。その後、地域の特産品の販路拡大に取り組む会社の様々な部署で3年弱働き、今年7月から「地域おこし協力隊」として西和賀に来ました。



——この町の好きなところは？——
いつも来るとわくわくするところ。南部かしわやユキノチカラプロジェクトが始まっていたり、7月には、まちなか交流館ができていたり。新しいことが生まれている感じがします。「西和賀が好き！」といってくれる友だちも多く、西和賀には人を惹きつける魅力があるんだと感じています。これから、西和賀に楽しいこと・面白いことをたくさん作って、多くの人にきてもらえるよう、私自身もいろんなことに取り組みたいと思います！

志賀来を離れて活躍する出身者に、今の生活を聞きます！

こんな ところに！？ 志賀来人

高橋 聡さん (65)

【分沢出身】
エクアドル在住

エクアドル国動植物防疫規制管理庁食品安全局に、JICAシニア海外ボランティアとして勤務（2018年7月現在）。エクアドルの首都キト市在住。右下写真：農牧省技術者へのGAP研修会終了後、同僚とカカオ豆生産者の家の前で。



@エクアドル

志賀来山にごめんね



エクアドルは南米の西海岸にある赤道直下の国で、アマゾンのジャングルやアンデス高地、ガラパゴス諸島なども含まれます。公用語はスペイン語。赤道直下の熱帯に位置する国ですが、標高が高い地域や、寒流であるペルー海流の影響を受ける地域は過ごしやすいと言われています。

分沢で生まれ、父の仕事の関係で一時、青森県の上北鉾山にいましたが6歳で分沢に戻りました。新町小学校に入学して、卒業は、太田と合併した沢内第一小学校でした。まだ百年橋もスクールバスもなく、トボトボ道草を食いながら、志賀来山に見守られ、鼻水を垂らして通っていたようです。（今でも姉たちに、いつも一番遅くに学校に走って行っていたとからかわれます。油断していると、赤ん坊の頃、私のオシメをかえた話や小学校におんぶをしていたという話をするので、姉たちには頭が上がりません。）その後、北上市で高校、神奈川県で学生生活を送りました。その間、アメリカのカリフォルニア州や栃木県の牧場にいましたが、26歳の時に青年海外協力隊でフィリピンに行き

ました。帰国後、ドイツの化学会社（ヘキスト社）農業事業部に入社し、4回の吸収合併を繰り返し、40歳で定年を迎え、今は、JICAのシニア海外ボランティアとしてエクアドルにきています。仕事は、主に海外に輸出するエクアドル産カカオ豆の農薬汚染防止対策をしています。語学の上達は、恋人を持つことも一つの方法だと言いますが、それは若い人の話で、スペイン語の単語も女性の名前も、私の頭はニワトリと一緒に、2〜3歩、歩くとすぐ忘れてしまいます。ただ、仕事では、日本の厚労省よりエクアドル植物検疫の違反事例報告が、一昨年は10件でしたが、今年は1件しか報告がなく、いくらかはこの国の役に立っているのかなと思っています。ただ、故郷西和賀の為に何か役に立っているのかなと考え、何もしていない自分についても嫌悪感を覚えます。今度、帰った時は、懐かしさと、申し訳ない気持ちで混在している志賀来山にごめんねって謝りたいと思います。

エクアドル首都キト市